2020年度「Ｂ＆Ｇ海洋性レクリエーション指導員」
第４回センター・インストラクター養成研修　実施報告書

2020.10.15
事業部　事業課

Ｂ＆Ｇ海洋性レクリエーション指導員規程 第 3 条に基づき、下記のとおり研修を実施し、15名が課程を修了したことをご報告いたします。

記

１．事業概要

2020年度「Ｂ＆Ｇ海洋性レクリエーション指導員」第４回センター・インストラクター養成研修は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、開催が危ぶまれたが、沖縄県本部町Ｂ＆Ｇ海洋センターにおいて、昨年度より期間を短縮、25日間の合宿研修を実施し、15名が修了した。

本研修は、海洋性レクリエーション（以下、海レク）活動や水泳指導、地域コミュニティの活性化を担う人材であるＢ＆Ｇ海洋性レクリエーション指導員（以下、Ｂ＆Ｇ指導員）を育成し、習得したプログラムに基づく実践活動を通じて、青少年の健全育成や海への理解促進、地域住民の健康増進、地域の発展に寄与する目的で実施するものである。

特に今年度は生活面や実技面で、合宿研修におけるソーシャルディスタンスや感染防止対策（詳細は８を参照）を徹底して行い、安全かつコロナ対応を取った効果的な研修が実施できた。

２．期間　2020.年９月５日（土）～　９月29日（火）（25日間）

３．場所　沖縄県本部町Ｂ＆Ｇ海洋センター（マリンピアザオキナワ）
沖縄県国頭郡本部町字浜元４１０

４．参加者

男性12名、女性３名　合計15名　　※修了者15名
（最年長者：32歳、最年少者：21歳、平均年齢：26歳）　※参加者名簿 別紙

５．研修スケジュール及び履修時間

履修時間　　計199.5時間（規定時間180時間以上）　※研修スケジュールは別紙

６．修了試験結果

研修生 15名全員が学科試験および実技試験（ヨット、カヌー、水泳、ロープワーク）に合格。
※修了試験の内容・試験項目・合格基準については、「Ｂ＆Ｇ海洋性レクリエーション指導員　養成研修の修了試験に関する達」に基づき実施した。※修了試験に係る「試験判定表」 別紙

７．資格認定および登録及び追加研修（オンライン等）について

前述の研修修了者は、所属海洋センターにおいて以下の登録認定課題を行い、実施内容を明記した「実績報告書」を今回の修了者に限り、2021年８月31日（火）までの提出とする。

◆資格認定条件となる認定課題

①水辺の安全教室の指導または指導補助を行う
②「リーダー研修」を開催し、3名以上のリーダーを養成する
③所属する海洋センターの指導者等に研修で習得した内容を伝達する

【追加研修（オンライン等）】

今年度は研修期間を33日間から25日間に変更、コロナ対応で外部講師を招聘しなかった。

以前の研修と比較して一部不足している部分があるため、研修終了後にオンライン等を活用した追加研修を実施することで、従来の研修と同レベルの水準まで達すると考える。

今年度は追加研修を含めて、履修時間に係るカリキュラムをすべて実施した後に、条件付きのみなし認定とし、B＆G海洋性レクリエーション指導員規程　第3条に基づき、「センター・インストラクター」指導員登録を行う。また、同規程 第6条および第7条に基づき、指導員証を交付する。なお、所定の期限までに認定課題の実践・報告を行わなかった者は、登録を抹消する。

8．今年度のコロナ対応について　※一覧は別紙参照

一例として、以下のようなコロナ対応を行い、今後の研修運営ノウハウを得ることができた。

ホテル到着時、対面を避けた座席配置で受付書類に記入する

受付時、各居室に配付した衛生・感染防止対策物品一覧

開講式の際、ソーシャルディスタンスを考慮し、お互い2m以上離した座席配置

机などの共用物品を使う際、毎回消毒液で拭いてから使用していた

座学の際、各机に 1 名の座席配置とした（例年は最大机に 3 名着席）

感染防止のため、看護師が両手に手袋をはめて、個人のペットボトルにお茶をつぐようにした

水泳・海レク実技の際に、それぞれ 2m 以上の間隔を空けてバディを取った
例年はバディ同士、手を組んでいたが、感染防止の観点から、接触を避けた

2 回目、3 回目の休務日ともに外出禁止としたため、研修生をリフレッシュさせる目的として、シュノーケル体験や BBQ を企画し、教官らで実施した

日朝点呼もソーシャルディスタンスを考慮し、各人の間隔を 2m 以上空け、マウスシールドを装着の上、実施した

15 名での点呼であったが、80 名での横幅と同等の長さとなったため、艇庫前の広さから計算すると 40 名程度でスペースいっぱいになってしまうことがわかった

9．昨年度からの「改善事項」等と今後の課題について

（1）科目選択の統一（水泳・海レク）

・海洋センター所在自治体から海レクと水泳両方のスキルを持った指導員の養成ニーズがあり、水泳・海レクの科目選択を廃止し、研修期間すべてを統一カリキュラムで実施することとした。

【結果】

・15 名の研修生をすべての期間、同一カリキュラムで実施したところ、昨年度と比較して、非常に効率がよいと感じた。

【今後の対応、課題】

・今後 80 名程度の参加人数で研修を行うことが出てくるが、例えば器材数の関係で、ヨット 40 名、カヌー40 名に分かれて実技を行い、それぞれの 40 名の中でも、20 名ずつのグループ分けをして、実技を行う場合もあり、教官やサポートスタッフの人数が 2 倍必要となり、研修の効率を上げていくことが課題である。

（2）参加資格（年齢）

・今年度も 40 歳未満を研修の参加条件としており、40 歳以上の派遣を打診してきた海洋センターも 5 件程あったが、研修全体の効率や効果的な課業運営を鑑み、参加をお断りした。

【結果】

・今年度、参加者の平均年齢 26 歳と昨年より 1 歳程若くなり、体力面では研修に何の支障もなく見受けられた。20 代中盤の年齢が多く、特に居室などの生活面で、研修生にとっては心地のよい環境で研修を受けることができていると感じた。

【今後の対応、課題】

・次年度以降も 40 歳未満の年齢制限を設けて、募集を行うこととしたい。

・幅広い年齢層や社会人経験など多様な人材がいてこそ、研修終了後の指導員ネットワークが強固になるため、来年度コロナ対策で 3 密を考慮する必要が発生した場合、（施設のキャパシティ 80 名の 50%相当）人数規模を 40 名～50 名程度の受け入れになることも想定される。

・宿泊施設マリンピアザの空室状況によるが、必要に応じて、複数回の研修実施も見据えて、様々な状況に対応できる方策を検討してく。

（3）参加資格（泳力）

・昨年度、泳力判定において50メートルの泳力を確認することができず退所することとなった北海道苫前町から参加者の派遣があり、苫前町を含んだすべての研修生が泳力判定に合格した。

【結果】

・募集要項や問い合わせの際にも、50メートル以上の泳力を徹底して周知したため、事前に練習に励んで研修に臨む研修生が増えてきたことは成果である。

【今後の対応、課題】

・次年度以降も海洋センター所長の確認印を求め、参加資格として50メートル以上の泳力を必須とし、研修効率を担保していきたい。

・検討する点としては、50メートルの泳力を参加資格としているため、本来は開講式前に泳力判定を実施し、泳力を有するもののみを開講式に参加させ、研修をスタートすることが理想である。開講式前日の受付後に泳力判定試験が可能か、次年度以降、研修スケジュールや参加者の行程を調整していきたい。

（4）海洋センター指導員の活用について

・今年度はコロナの関係もあり、最小人数の教官で対応することを決めた。しかし、研修運営において、安全管理は最重要課題であり、必要不可欠なものであるため、阿瀬川指導員（浜田市三隅）、林指導員（呉市蒲刈）、古賀指導員（朝倉市甘木）、小浜指導員（本部町）の4名に協力をいただいた。

【結果】

・今回の4名は日々現場で指導しており、かつベテランで十分なスキルがある指導員に協力いただいたため、結果として、事故や怪我もなく、安全な研修ができたことは成果である。

・専任指導員として招聘した指導員は、「高い技術」、「優れた指導ノウハウ」を持つとともに、財団への理解があるため、研修生へ単なる指導だけでなく、現場での活動を見据えたアドバイスや安全管理の重要性を海洋センター指導員の視点で説いてくれる役割は、専任指導員にしかできないことであり、非常に有用である。

・次年度以降も、役員へご相談の上、必要な人材を必要な時期に招聘させていただきたい。

（5）財団内の教官育成について

・担当課以外の教官は、中島教官、中村教官のみで行った。それぞれ、ヨット実技、水泳実技の専門家であり、財団内ではトップレベルのスキルと指導ノウハウを持っている。

【結果】

・養成研修は年一回であり、沖縄での現場のみで、教官の技術スキルや指導レベルを向上させることは容易ではない。また、近年運動経験があまりない職員もおり、今後は若手職員の中で、適材適所、必要なスキルと指導ノウハウを持った人材を養成研修の教官として、役員にご相談の上、活用することを検討していきたい。

【今後の対応、課題】

・しかしながら、財団の根幹事業としての養成研修を今後5年、10年と継続できるよう、教

官研修など継続的な座学や実技を通して、指導ノウハウやスキルの向上を図るとともに、各職員の自己研鑽を促進していかなければ、養成研修全体のレベルを向上させることはできない。

（6）履修時間の再検討について

・25 日間の研修であったが、最終的には規程の 180 時間を上回った時間数を確保した。

【結果】

・規程にある実施項目、時間数と実際を比較すると、例えば、以下の項目については、実態と乖離している部分があるため、履修時間の再検討が必要と考える。

例）「B&G 指導員養成研修の教科」 規程（抜粋）

【実習】 2．救急法・救助法	・救急法 ・救助艇操船、水上バイク救助法	規程：10 時間 2019 実績：3.5 時間（海レク班のみ）

※直接的に救急法・救助法に該当するカリキュラムは、2019 年度実績で海レク班において救助艇操船の課業が 3.5 時間のみであった。

【今後の対応、課題】

・次年度コロナ対応の有無により、研修運営方法が大きく異なるため、状況を見ながら、現状と実態に即した教科項目と時間数を再検討していきたい。

１０．職員所感

【坂倉　一寿】

今年度の養成研修は、コロナ禍により通常の 6 月開催を延期して 9 月開催とし、日程も 25 日間、15 名の今までにない少人数で、徹底した感染防止対策での研修となった。
また、9 月に順延したことで、開始の数日前まで従来の研修地であるマリンピアザの宿泊予約が取れず、近隣ホテルで宿泊する計画も立てていたが、直前になり修学旅行等のキャンセルが出たため、ピアザでの宿泊が可能となり、研修生の移動や研修室の確保、食事等についての不安が消えた。

この研修で私の目標は、「コロナクラスターを出さないこと」を一番に掲げた。

研修生を完全隔離し、外部との接触を極力避けさせた生活様式。休務日の外出禁止、ホテル内の共有スペースの使用不可、買い出しの制限、3 密の徹底、毎日の体調チェック。研修生には大変な不便、不自由を掛けることになったが、結果、感染者を一人も出さず全員が修了出来た。研修生の理解と協力がなければ成しえなかったこと。研修生をはじめ研修を受け入れてくれた本部町、マリンピアザに感謝している。

さて、今回は研修の管理運営と全体指導について、今年で 2 回目となる鈴木昭教官を総括教官として、私はそのサポート役に回った。

滞ることなく「無難な研修」であった。という印象。

昨年まで経験できなかった研修当初の基本から最終まとめまですべての研修運営と生活管理を体験したことで、彼なりの色が出てきて、今後の新たな養成研修の形が見えてきた。

総合的に合格点。しかし、まだまだ2回目。これからも失敗を恐れず更に知識と技術と経験を積んで、より進化してほしいと願う。

今回実施したコロナ感染防止対策を行った内容の不都合や非効率であった事などを改善し、来年に向けた計画を練っていきたい。

【鈴木　昭正】

新型コロナウイルス感染症の影響により、一時中止の判断をした後、日本財団からの強い要請により、9月に人数規模と研修期間を縮小して実施することとなった。

準備期間が1か月程、その時点でもマリンピアザの宿泊部屋が確保されておらず、また感染拡大防止の観点から、教官・スタッフの人数も最小限に抑えるなど、前年とは全く異なる状況で実施する初めての研修となり、実施まで不安なことばかりであった。

新型コロナウイルス陽性者を一人も出さず、研修を中断・中止することなく、無事に研修生全員を修了させることが最大の目標であった。

最初のハードルは研修初日に実施した泳力判定であったが、昨年度退所した苫前町も含め、全員研修参加条件をクリアしたことで、教官一同安堵した。

当初14日間は研修生や教官らは外出を控え、施設内で隔離し、手洗い・消毒・マスク着用、日々の検温による体調チェックなど考えられうるコロナ対策を行っていくことを考えていた。

手探りの状態で14日間が過ぎたころも、まだ沖縄や東京をはじめとする都市部での感染者数の高止まりが続いていた。そのため、最大の人出が予想される秋の4連休の日曜日に設定されていた3回目の休務日も、苦渋の決断として外出禁止を研修生に伝えた。予想通り、マリンピアザも観光客であふれかえり、施設前の道路は美ら海水族館に向かう車で渋滞するなど、外部との接触による感染の恐れが最大となったが、修了式まで無事に全員を修了させることができ、次年度に向けたコロナ対策のノウハウを得られたのはひとつの成果であった。

今回外部講師の活用をしないことを決めたが、ベテランかつ現役の海洋センター専任指導員の協力のおかげで、充実した実技と安全な課業運営ができた。コロナが収束していれば、今後も外部講師を活用していくが、役割と成果をしっかりと検証しながら、必要に応じて活用させていただきたい。

25日間は非常に限られており、1．海レク実技・2．安全管理・3．指導法習得・4．財団の理解・5．指導実習の5点をカリキュラムの柱とした研修内容を組み立てていきたい。

事務処理の面においては、東京に残った進藤係長が参加者に付保する保険や仮払金残高の管理・仮払金の追加、貸切バスの手配など、様々な対応をしていただいたおかげで、研修生への実技指導や研修生の面倒、コロナ対応について、集中することができ、裏方として非常に貢献していただいた。今後も、担当教官が現場での実務に集中できるよう、デスクワークで研修を支える役割の職員が必要不可欠である。

2年目の教官業務を担当し、現場で事故を起こさない指導員を養成する責任の重さと集団を意図した方向に導くことの難しさを感じた。天候や風に恵まれ、荒天の環境で実技をする機会はなく、研修生同士もよく言えば実技中も和気あいあいとしており、今後人の命を預かり、子供たちに体験をさせる立場となることを、研修生が理解し、その重みが全員に伝わったかどうか、非常に反省するところであるが、この反省を次年度に活かしていきたい。

○中島教官、中村教官については、別紙にて「教官振り返り・改善点等」を添付

１１．表彰

①優秀賞　２名

・亀谷　智哉　　B&G 財団

・岡　　勇太　　岡山県奈義町 B&G 海洋センター

【選考理由】

リーダーとして、研修生を引っ張り、全員を修了まで導いたため。

②プールカヌーレース賞　１名

・松井　一星　　兵庫県香美町香住Ｂ＆Ｇ海洋センター

③水泳賞　１名

・今田　来我　　滋賀県多賀町Ｂ＆Ｇ海洋センター

④ヨットレース優勝者　１名

・稲　　優大　　鹿児島県天城町Ｂ＆Ｇ海洋センター

１２．専任指導員

氏　名	所属センター	科　　目
阿瀬川　文輝	島根県浜田市三隅	実技：水泳／講義：センター運営事例
小浜　直重	沖縄県本部町	実技：ヨット・レスキュー
林　幸太郎	広島県呉市蒲刈	実技：カヌー・ＳＵＰ／講義：センター運営事例
古賀　博隆	福岡県朝倉市甘木	実技：水泳／講義：センター運営事例

１３．別紙添付資料

（１）教官反省・改善点フォーム

（２）財団からの受講者所感（職員４名・自治体派遣研修生３名）

（３）参加者名簿（都道府県別・班別）

（４）研修スケジュール表

（５）成績一覧表

（６）修了のしおり

（７）コロナ対応実施一覧

（８）外部講師比較 及び 追加研修（オンライン等）案

以上

財団内部用

2020.12.15

2020年度　全国指導者会　ブロック責任者会議　開催報告書

（日時）2020年 12月3日（木）　9：00～17：00

（場所）　青森県南部町　アヴァンセふくち　ウェルネスホール

※従来は東京（財団事務所）で開催しているが、コロナの感染状況により、ブロック責任者等の東京へ出張が制限されている。調査によると、ブロック責任者10名のうち5名が東京への出張が困難。そこで、移動制限が少ない、全国指導者会会長の自治体青森県南部町に変更し、全国指導者会の意思決定に必要不可欠な本会議の開催を行うこととした。

（出席者）

正副会長　4名、アドバイザー　1名、全国指導者会ブロック責任者　10名(2名はオンラインにて出席)　他

詳細は、会議資料を参照

1．開会

・菅原理事長　挨拶

南部町で会議ができて感謝している。これからも海洋センター、自治体が発展していくため、B&G財団も新しい事業に取り組んでいく。

自治体の発展がB&G財団の発展に繋がる。そのための支援は惜しまない。発展のために新しい事業両輪として注力していく。今日一日闊達な意見交換をお願いしたい。

・工藤会長　挨拶

足を運んでいただきありがとうございます。

みんな仲間なんだという意識をもってさらに絆を深めて事業に取り組んでいきたい。

コロナで事業が概ね中止となったが、役場職員にアイディアを求めた。そしてキャンプを開催したところ、大変人気で予想以上の参加があった。ナイトシアター3本上映を星空の下開催。このように工夫してアウトドアできる事業もあった。子どもたちにできるだけ機会を提供したい。忌憚のない意見を頂戴したい。

2．活動状況報告

会議資料をもとに、職員が説明。

3．近況報告

各道府県ブロック責任者が全国指導者会の近況を報告した。

詳細は議事録を参照。

4．自然体験活動100%実施達成に向けて

ブロック責任者から海洋センターへのヒアリング結果に基づき、実施できない理由や課題、改善に向けたアイディア等について、報告していただいた。

詳細は議事録を参照

●決定事項

・お助け指導員の周知をし、自然体験活動のイベントの実施をしていく(主催、共催、協力含む)。

・自然体験活動の定義を見直し、定義を広げる。

●決定事項に係るスケジュール　※詳細は会議報告・まとめ資料を参照

ブロック責任者が対応すること　(期限：12/24)

1．県責と連携し、海レク未実施センターにピンポイントで、以下の内容を実施する

・2021年度のブロックや県連事業の日程（案）を連絡する

・海レク未実施センターに対し、指導者等の2021年度事業への参加を依頼する

・海レク実施に係る定義の緩和内容を伝える

2．県責へ連絡し、本報告内容や県責の役割を伝達し、全海洋センターへ情報を周知する

3．県責への連絡および県責との連絡先一覧の作成

ブロック責任者が対応すること　(期限：年度内)

1．県責と定期的に連絡を取り、ブロック内の情報を共有する

2．ブロック内県連会議の2020年度下期実施状況の把握と会議出席調整（旅費支援あり）

3．県連幹事に対して、第5回総会の参加者派遣予算の確保を依頼及び提案

4．各ブロックで開催されるブロック幹事会議への出席および依頼内容、周知事項の伝達

5．次期3か年の活動目標（案）を事務局に提案する

事務局が対応すること　(期限：12/17)

1．海レク実施の定義をとりまとめ、全海洋センターへ発信する（周知）

2．お助け指導員への旅費支援の制度を全海洋センターへ発信する（周知）

3．水辺の安全教室や海レク未実施の状況をブロック責任者へフィードバックする（情報共有）

4．ブロック別指導員研修会 下期の実施見込みを確認する（確認）

事務局が対応すること　(期限：年度内)

1．次期3か年の活動目標（案）をブロック責任者から募る（依頼：1月末まで）

2．今年度の海レク実施センターの情報提供、情報発信（周知）

3．第5回総会のコロナ禍における代替会場の調査（調査）

5．県責任者の役割・選任の方法について

ブロック責任者の事前アンケート結果に基づき、ブロックごとの現状を報告した。詳細は議事録を参照

●決定事項
・県責任者は１名ないし２名にする。(情報共有しやすいため)
・県幹事は１名を必須とする。(その他詳細は、事務局にて規則を再検討する。)

6．次期活動目標について

全国指導者会の次期活動目標について、ブロック責任者から意見をいただいた。
詳細は議事録を参照

○意見
金久アドバイザー：画期的に変更してもよい。大きな目標を掲げたい。コロナ禍ではあるが、未来にいくという挑戦的な目標はどうだろうか。
曽根副会長：海ごみ、環境問題に取り組んでいることを打ち出したい。これについては実施率100%を目指せるのではないだろうか。

※随時意見を頂戴する。

7．災害支援について

副会長から令和２年７月の豪雨災害での災害支援について資料に基づき説明があった。
詳細は議事録を参照

○意見
・工藤副会長：災害応援について具体案を事務局から提示してほしい。
・理事長：被害が一番ひどいところ以外に派遣するにはどうしたらよいのか。

8．閉会

・菅原理事長　挨拶

B&Gの海洋センター担当部署は人や給料も減らされ、余暇活動を使うことの優先順位が低くなる。しかし子供たちは未来の宝である。将来大きくなった時に子供達には地域で活躍してもらいことにつながる。また高齢者に健康づくりをしているところは医療費を削減することができる。できないことを考えるのではなく、できることを考えてほしい。ここにいる人たちは常に前を向いている人たちだと思っている。地域住民のため、子供たちのために頑張ってほしい。コロナ禍において青森まで足を運んでくれてありがとうございました。

・工藤会長　挨拶

長時間ご苦労様でした。指導者は横のつながりが大事で、沖縄で同じ釜の飯を食べた仲間である。それぞれの自治体からは毎年沖縄で研修生をだしてもらい、つなげていかなくてはならない。結果的にできないことはあるが、大事なことはできるように努力したかどうかである。資質向上に努めてこれからも頑張っていきましょう。

●予算について（正副会長会議、ブロック責任者会議）

旅費交通費	ブロック責任者等の出張・宿泊旅費　18 名	NF 指導者会	817,945 円
〃	〃	他 NF 予算	285,440 円
旅費交通費	ブロック責任者等の宿泊料	NF 指導者会	78,481 円
賃借料	会議室賃借料	NF 指導者会	25,550 円
旅費交通費	現地タクシー代	NF 指導者会	3,370 円
NF 予算合計			1,210,786 円
会議費	南部町交流会費　31 名	自主予算	208,920 円
〃	懇親会費	自主予算	259,739 円
雑費	手土産代　16 名	自主予算	54,450 円
〃	ビール券代	自主予算	25,350 円
自主予算合計			548,459 円
合計			1,759,245 円

以上

（様式４）

北海道連協第 10 号
2020 年 10 月 30 日

B&G 全 国 指 導 者 会
会　長　　工 藤 祐 直　様

Ｂ＆Ｇ北海道ブロック連絡協議会
会　長　砂川市長　善岡　雅文　印

2020 年度 B&G 全国指導者会ブロック指導員研修会
完了報告書

記

１．実施内容

事業内容	別紙、開催要項のとおり 参加人数　29 名【運営者　5 名（講師含む）】
事業成果	今年度も、全国指導者会のテーマに沿って「自然体験活動」を実施している講師を招いて「レクゲームの体験と使い方」を教えていただき指導技術の向上を目指しました。 本年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、マスクやマウスガードの着用をし、接触をなるべく避けてレクゲームを行うなどの対策を行いました。
記録写真（DVD）	別紙のとおり https://portal.hokuryu.info/4980/（北竜町 HP に記事が掲載）
運営課題	今年度の開催については新型コロナウイルス感染症の影響もあり、開催そのもの検討に時間をかけたことから、開催に向けて準備する時間が例年よりも少なかった。 次年度は事態が好転しているとも限らないため、早いうちからの準備と感染症の情勢についてこまめに情報収集していき、有意義な研修会を開催できるようにしたい。
所属先	砂川市 B&G 海洋センター
氏名（役職）	主事　山越　博輝
電話	0125-52-4809

２．収支計算書

※詳細は下記のとおり

費　　目	全国指導者会運営協力費	ブロック負担額	合　　計
報償費	30,000	20,000	50,000
講師旅費			
食糧費			
賃借料			
印刷製本費			
その他の経費		20,000	20,000
合　計	30,000	40,000	70,000

＝領収書の写しを添付＝

「B&G 財団助成事業」
公益財団法人　ブルーシー・アンド・グリーンランド財団助成事業

令和２年度　北海道Ｂ＆Ｇ指導員研修会
開　催　要　項

１．目　　的　　北海道のＢ＆Ｇ地域海洋センター・海洋クラブにおいて活躍している指導者が一堂に会し、指導技術の向上並びに管理運営に関する研修を実施し、各地域における青少年の健全育成・自然体験活動の推進とスポーツ・レクリエーション活動の普及に努めることを目的とする。

２．主　　催　　北海道Ｂ＆Ｇ地域海洋センター連絡協議会

３．共　　催　　B&G 全国指導者会

４．後　　援　　公益財団法人　ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
北竜町教育委員会

５．主　　管　　北竜町 B&G 海洋センター

６．期　　日　　令和２年９月２４日（木）～ ２５日（金）　　２日間

７．会　　場　　北竜町公民館　雨竜郡北竜町字和１０番地１
TEL：0164-34-2553

６．対 象 者　　北海道内のＢ＆Ｇ指導員及び海洋センター担当者

７．研修内容　　【１日目】
「レクゲームの体験と使い方」
講　師　　環境教育ファシリテーター　　二杉　寿志　氏
※雨天の場合は室内で実施します。

【２日目】
B&G 北海道ブロック連絡協議会総会

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

B&G Instructor's ZENSHIKAI

8．日　　程　　【1日目】9月24日（木）

１３：００	～ １３：３０	受　付
１３：３０	～ １３：５０	開　会
１４：００	～ １６：３０	実　技（※雨天の場合講演）
１６：３０	～ １６：５０	公民館からサンフラワーパーク北竜温泉へ チェックイン、各部屋へ
１８：００	～	実情交流会・会食

【2日目】9月25日（金）

９：４０	～ ９：５０	バスにて移動　公民館へ移動
１０：００	～ １１：３０	B&G 北海道ブロック連絡協議会総会
１１：３０	～ １２：００	閉会・解散

9．持 ち 物　　実技がありますので、ジャージ等動きやすい服装でご参加ください。
また、雨天の場合体育館で行いますので上靴の用意をお願いします。

10．宿泊場所　　宿泊を希望する方は、別紙申込書にご記入ください。（事前に集約済み）
サンフラワーパーク北竜温泉　宿泊料金は、朝食込7,０００円となります。
【北海道市町村職員共済組合　指定宿泊施設利用助成券が利用できます】
住　所：雨竜郡北竜町字板谷１６３番地の２　℡0164-34-3321

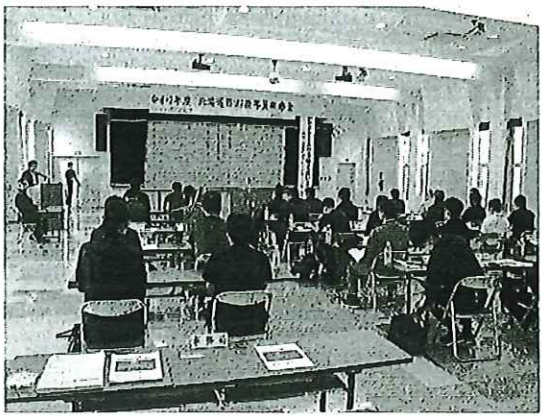
11．実情交流会　　１日目終了後、実情交流会を開催いたします。
日頃、各センターで抱えている問題などありましたら情報交換するよい機会ですので、是非ご参加ください。
実情交流会負担金　5,０００円

12．参加申込　　未提出又は変更のあるセンターは別紙申込書に必要事項を記入し、下記まで申し込みください。
申込期限　9月１１日（金）

〒０７８－２５１２
雨竜郡北竜町字和１０番地１
北竜町教育委員会　社会体育係　担当：清水野　梨希
ＴＥＬ　０１６４－３４－２５５３
ＦＡＸ　０１６４－３４－２６３５

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

B&G Instructor's ZENSHIKAI



令和2年度 北海道BSG指導員研修会 会場
BSG Instructor's
ZENSHIKAI
北海道ブロック